

分科会報告 ③

1. コーディネーター 福崎真知子

2. テーマ

歴史から紐解く食文化

3. 参加者数 10名

宮城県 4名 山形県 3名 福島県 3名

4. ディスカッション内容

はじめに、自己紹介しながら自身の食文化に対する、取組みや意見などをお聞きしました。メンバーは、自営業、コピーライター、駅弁屋経営、不動産業、大手企業社員、大学生、組織役員、メディア関係者など、いろいろな職業の方で未知の話などもあり、大変有意義なお話しが聞け、交流が図れスタートしました。

先ず、私が現在取り組んでいる、「食文化の追求」の参考事例を紹介しました。米沢で生まれ7歳まで育ち、その後、伊達政宗の命を受け、石巻からスペインに向けて出帆、日本とスペインの交流の礎を作ったと言われている支倉常長。またチョコレートや、珈琲など欧州の食文化に初めて触れた日本人でもある「支倉常長」を顕彰中であり、「食文化の追求」は歴史と多いに関係が深い事を、一つの事例としてお話ししました。

内 容

- ・山形は食材が豊かであり、今のうちに先輩から食文化について学び、名物、名産は自分たちで作りましょう。
- ・歴史を紐解くと、命を繋ぐ食の大切さ、保存食や伝統食の伝承を今こそすべき時期なのだろうと感じました。
- ・福島食について、全く知らないしまた、情報も少なく、地元の食文化についても知らないことが多い事に気づき我ながら驚いたが、地元ならではの食文化を学ぶには団結力が必要なのではないでしょうか！食文化について学べた良い機会であり、機会があればまた参加してみたいと思います。
- ・福島県は、3地区に分かれており、それぞれ食文化にも違いがあり、城下町であったところは食文化レベルも高いのではと思います。城下町がキーワードでしょうか。
- ・支倉常長の凄さが分かりました。歴史は、超有名人だけで成り立っている訳ではないとあらためて思いました。
- ・“地域の歴史は食の歴史であり、食は人と人を繋ぐ接着剤！”
- ・歴史と食との関りがいかに大切か・・・先人たちからの伝承を早めに次世代に伝えていく事を適切に感じました。また、メンバーの方々から素敵な助言を頂き有意義な分科会でした。
- ・「ふるさとの味は、ばばちゃの味。もう一度、食べたい。会いたい・・・」
たった1回のブレインストーミングでは、もったいない！
- ・いろいろな楽しいお話しが聞けてとても良い機会となりました。

まとめ

「歴史から食文化のつながりを紐解き、地域の活性化を目指しましょう！」